

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 19 年 1 月 11 日 (2007.1.11)

【公表番号】特表 2002-501748 (P2002-501748A)

【公表日】平成 14 年 1 月 22 日 (2002.1.22)

【出願番号】特願 2000-529437 (P2000-529437)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 0 1 H 5/00 (2006.01)

A 0 1 K 67/027 (2006.01)

A 6 1 K 39/35 (2006.01)

C 0 7 K 14/37 (2006.01)

C 0 7 K 14/415 (2006.01)

C 0 7 K 14/435 (2006.01)

C 0 7 K 14/47 (2006.01)

C 1 2 N 1/15 (2006.01)

C 1 2 N 1/19 (2006.01)

C 1 2 N 1/21 (2006.01)

C 1 2 N 5/00 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 0 1 H 5/00 A

A 0 1 K 67/027

A 6 1 K 39/35

C 0 7 K 14/37

C 0 7 K 14/415

C 0 7 K 14/435

C 0 7 K 14/47

C 1 2 N 1/15

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 1/21

C 1 2 N 5/00

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 11 月 16 日 (2006.11.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 改変ピーナッツアレルゲンを発現するトランスジェニックピーナッツ植物であって、該トランスジェニックピーナッツ植物のアミノ酸配列は、該改変ピーナッツアレルゲンに対する I g E 結合が非改変ピーナッツアレルゲンに対する I g E 結合と比較して減少されるように、少なくとも 1 つの I g E エピトープで少なくとも 1 つのアミノ酸が改変されていることを除いて、該非改変ピーナッツアレルゲンのアミノ酸配列と実質的に同一である、トランスジェニックピーナッツ植物。

【請求項 2】 前記非改変ピーナッツアレルゲンが A r a h 1 である、請求項 1 に記載のトランスジェニックピーナッツ植物。

【請求項 3】 前記非改変ピーナッツアレルゲンが A r a h 2 である、請求項 1 に記載のトランスジェニックピーナッツ植物。

【請求項 4】 前記非改変ピーナッツアレルゲンが A r a h 3 である、請求項 1 に記載のトランスジェニックピーナッツ植物。

【請求項 5】 前記改変ピーナッツアレルゲンに対するプールされた血清 I g E 結合が、前記非改変ピーナッツアレルゲンに対するプールされた血清 I g E 結合と比較して減少される、請求項 1 に記載のトランスジェニックピーナッツ植物。

【請求項 6】 前記非改変ピーナッツアレルゲンのすべての I g E エピトープで、少なくとも 1 つのアミノ酸が改変されている、請求項 1 に記載のトランスジェニックピーナッツ植物。

【請求項 7】 前記非改変ピーナッツアレルゲンの 1 つ以上の I g E エピトープで、少なくとも 1 つのアミノ酸が置換によって改変されている、請求項 1 に記載のトランスジェニックピーナッツ植物。

【請求項 8】 前記非改変ピーナッツアレルゲンの 1 つ以上の I g E エピトープの少なくとも 1 つの疎水性アミノ酸が、中性のアミノ酸または親水性アミノ酸で置換されている、請求項 1 に記載のトランスジェニックピーナッツ植物。

【請求項 9】 前記改変ピーナッツアレルゲンが、前記非改変ピーナッツアレルゲンに対してアレルギー性である少なくとも 1 つの個体から培養された T 細胞を活性化する能力を保持する、請求項 1 に記載のトランスジェニックピーナッツ植物。

【請求項 10】 前記改変ピーナッツアレルゲンが、I g G に結合する能力を保持する、請求項 1 に記載のトランスジェニックピーナッツ植物。

【請求項 11】 前記改変ピーナッツアレルゲンが、T h 1 型応答を惹起する能力を保持する、請求項 1 に記載のトランスジェニックピーナッツ植物。

【請求項 12】 前記植物が、改変 A r a h 1 アレルゲン、改変 A r a h 2 アレルゲンおよび改変 A r a h 3 アレルゲンを発現する、請求項 1 に記載のトランスジェニックピーナッツ植物。

【請求項 13】 少なくとも 1 つのアミノ酸が、表 4 の置換に基づいて、1 つ以上の I g E エピトープで改変される、請求項 2 に記載のトランスジェニックピーナッツ植物。

【請求項 14】 少なくとも 1 つのアミノ酸が、表 5 の置換に基づいて、1 つ以上の I g E エピトープで改変される、請求項 3 に記載のトランスジェニックピーナッツ植物。

【請求項 15】 少なくとも 1 つのアミノ酸が、表 6 の置換に基づいて、1 つ以上の I g E エピトープで改変される、請求項 4 に記載のトランスジェニックピーナッツ植物。

【請求項 16】 ピーナッツに対するアレルギー反応が減少するように個体を処置するための医薬の製造における、請求項 1 ~ 15 のいずれか 1 項に記載のトランスジェニックピーナッツ植物によって産生されるピーナッツの使用であって、ここで、該医薬は、一定の量で、非改変ピーナッツアレルゲンに対するアレルギー反応を減少させるのに十分な時間投与されるように処方される、使用。

【請求項 17】 食物の製造における、請求項 1 ~ 15 のいずれか 1 項に記載のトランスジェニックピーナッツ植物によって産生されるピーナッツの使用。

【請求項 18】 請求項 1 ~ 15 のいずれか 1 項に記載のトランスジェニック植物によって産生されるピーナッツを含む、ピーナッツに対するアレルギー反応が減少するように個体を処置するための組成物であって、該組成物は、非改変ピーナッツアレルゲンに対するアレルギー反応を減少させるのに十分な時間投与されるように処方される、組成物。

【請求項 19】 請求項 1 ~ 15 のいずれか 1 項に記載のトランスジェニック植物によって産生されるピーナッツ。